

第1回半田市図書館運営基本計画策定委員会議事録

開催日時	令和7年7月15日（火）	14時～15時45分
開催場所	半田市立図書館 第1会議室	
会議次第	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 正副委員長の選任 4. 議題 （1）図書館運営基本計画の策定について （2）半田市立図書館の現状について ・現在の利用状況や取組 ・第2次子ども読書活動推進計画 ・図書館利用にかかる市民調査 5. その他 【配布資料】 ・資料1 半田市立図書館運営基本計画策定委員会設置要綱 ・資料2 半田市立図書館運営基本計画の策定について ・資料3 令和7年度図書館概要（令和6年度実績） ・資料4—1 第2次半田市子ども読書活動推進計画 ・資料4－2 第2次半田市子ども読書活動推進計画取組状況 ・資料5 図書館利用にかかる市民調査について中間報告 （含む調査票）	
出席委員 (欠席委員)	出席委員 委員長 伊藤真理、副委員長 大矢里実 委員 北中美郷、笠井香里、佐藤幸恵、齊藤裕美子、前田早苗 松石陽介、伊藤里香、市野喜啓、青木美希 ※敬称省略、名簿順	
事務局	教育部長 森田知幸、図書館長 藤井寿芳、副主幹 竹内由香、 主査 岩本紀子、主事 清水太士、主事 太田絢香	
	議事概要	
1. 開会		
2. 委嘱状交付	※委嘱状を交付 (教育部長) <p>本市は昭和12年に三つのまちが集まって市になりましたが、その当時から各まちに図書館があるという古くからの学術都市だった。そのまちの図書館を統合し、市立図書館となり、来年で設置80周年を迎える。長きにわたり、資料を収集保管し、貸出・閲覧を通じて、「知識の拠点」としての役割を担ってきた。</p> <p>現代の図書館を取り巻く環境は大きく変化しており、少子高齢化やデジタル化の進展、情報の多様化に伴い、図書館の果たす役割も、これまで以上に複雑かつ多様なものとなってきている。単なる「本</p>	

	<p>を貸し出す場」から、「学びを支える拠点」や「地域の交流・共創の場」へと、その姿を進化させることが求められている。</p> <p>このような中で、図書館の将来像を明確に描き、地域の実情に即した持続可能な運営方針を定めることが必要である。</p> <p>そのためには、市民の皆様や関係者の声を広く伺いながら、今後の方向性をしっかりと見定め、計画的に取り組むことが重要で、本日は、図書館運営の現状や課題を共有しながら、今後の計画の策定に向けた重要な第一歩として、委員の皆様からご意見を頂戴したい。図書館のあるべき姿をともに考え、市民にとってさらに価値ある「知識の拠点」となるよう、ご協力をお願いする。</p>
3. 正副会長の選任	<p>委員長に伊藤真理委員、副委員長に大矢里実委員を選任。 (委員長)</p> <p>本日から全4回、本委員会の取り回しを務めさせていただく。本図書館は、東海エリアで活発な図書館として知られている。私自身も半田市や田原市などを学生にも紹介しているので、本策定委員会委員としてお声かけいただきうれしく思っている。</p> <p>個別の事業についてはわからないことも多いので、実際に事業に携わり経験のある委員の皆様に、その知見から様々な意見を出していただきたいと思う。協力をお願いしたい。</p>
5. 議事	<p>(1) 図書館運営基本計画の策定について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館運営基本計画の策定について、資料2を事務局より説明 (委員長) ・第1回委員会は、顔合わせの意味もあり、本図書館に関わり実際に活動している皆さんことを知りたい。 ・この1年の全4回の委員会で10年間の計画を策定するという大きな役目を担っている。第2回目以降は、かなりのスピードで進んでいくと思われる。 ・そのため、些細な内容でもいいので、今の事務局からの説明を受けて共通認識として深め、同じ方向を向くためにも忌憚のないご意見いただきたい。 (委員) ・事務局の説明では、第2次子ども読書推進計画も含めて、運営基本計画を策定していくことによいか。 (館長) ・そのとおり。子ども読書の推進は、本図書館に必要な取組として運営基本計画の1つの施策として位置づけていく。 (委員)

・第3次子ども読書推進計画として位置づけ、運営基本計画に含むのか。

(館長)

・第3次計画として策定はせず、子ども読書推進の内容を施策として、運営基本計画の中で定めて推進していく。

(2) 半田市立図書館の現状について

・現在の利用状況や取組

(事務局)

・現在の利用状況や取組について資料3で事務局より説明

(委員長)

・とても活発に活動されていることがわかる資料で、2点教えていただきたい。1点目はお父さんの読み聞かせ会の活動状況、2点目は学校等連携支援事業で中学校への支援が難しい状況だがどういった課題があるか。

(佐藤委員)

・きりんの会は僅かだが男性会員がいて読み聞かせを行っている。声のトーンや選ぶ本も女性とは違った目線で好評である。

(委員長)

・私自身が参加した講演会で、父親と母親の読み聞かせはジャンルをわけるといいという話があり、父親は怖い話が合っているという内容だった。きりんの会のお父さんの読み聞かせ会の取組みはボランティアの活動でも珍しい。

(委員)

・きりんの会で男性会員に読み聞かせをしてもらうようになったきっかけは、土日休みが当たり前となり、図書館に父親が子どもを連れてくる姿を見るようになり、図書館職員と相談して男性会員で読み聞かせをやるようになった。

(委員)

・あんころもちにも、男性会員がいて、声のトーンの違いから独特的な雰囲気がある。

・あんころもちの「ちいさいいちいさい読み聞かせ会」は、乳幼児0～2歳が対象で、父親の参加も多いので、家で読み聞かせをしてくれていると思っている。

・団体の活動から父と子、祖父と子といった読み聞かせの機会が増えてきている。

(委員長)

・父親への読み聞かせの講座はあるか。

(委員)

・きりんの会では、ボランティア養成講座の対象を誰でもとしている

て、参加された方から会員になってもらっている。

(館長)

・資料3の37ページ、(7)赤ちゃんと絵本の出会い事業は、本市特有の事業として行っている。3か月児健康診査の際に、ボランティア団体の方にもご協力いただき、読み聞かせの意義を伝えている。3か月健康診査には、両親で来ている方も多く、読み聞かせと一緒に体験いただきながら、意義を理解していただくことを大切にしている。

(事務局)

・学校等連携支援事業での中学生への支援の課題としては、コロナ禍前までは年間5～6件は実施があり、特別支援学級からの依頼が多かったが、コロナ禍がきっかけで依頼がなくなり、そのまま続いている状況となっている。課題としては担当の先生の異動、図書館からの働きかけや周知が課題と感じている。

(委員)

・資料3の36ページに調べ学習お届け便があるが、デジタルで何でも調べられるけれども、深く学ぶのはデジタルでもよいが、小学生には、まず本があって、そこから興味関心につながり、調べ学習をすることもある。そうした本を校内の司書や図書館の司書にお願いして揃えてもらうこともあり、アナログな本も特に小学校低学年には必要だと思っている。

・第2次子ども読書活動推進計画

(事務局)

・第2次子ども読書活動推進計画について資料4で事務局より説明

(委員)

・子ども読書活動推進計画に沿って、小学校への取組み、子どもへのボランティアの取組み、赤ちゃんから高校生まで多くの事業をやっていただいて感謝をしている。

・資料2半田市立図書館運営基本計画の策定について3ページ、5. 計画概要（イメージ）があるが、ここの（2）基本計画の中の基本目標に、「子ども」という文字がない。

・今までやってきた子ども読書活動推進計画について、3つの基本方針や読書好きな子どもを増やすこと、子どもの不読率を減らすことを目標にやってきたことが、計画概要の基本目標から読み取れず、基本施策の一部のみの記載となっていることを危惧している。

(館長)

・あくまで計画概要はイメージだが、具体的な記載がないことを反省している。

(委員長)

・基本施策の一部や基本目標の「イ) 誰もが利用しやすい図書館へ」に子どもも含まれるが、委員の構成が低年齢層に関わる方が多いので、今後バランスを取っていきたい。

(委員)

・子ども読書活動推進計画で得た課題や方針を図書館基本計画の課題や方針とするとよい。

・生涯学習課でも生涯学習の分野でも障がいのある方や外国籍市民へのサービスの提供の在り方はこれから必要となる。

(館長)

・子どもに限ったことでなく、幅広く誰にでも使ってもらえる図書館であることが大切である。障がいのある方や外国籍市民への読書支援も必要なため、図書館運営基本計画に子ども読書活動推進計画を内包する形を考えている。

・図書館利用にかかる市民調査

(事務局)

・図書館利用にかかる市民調査について資料5で事務局より説明

(委員長)

・依頼文にもありました、資料5図書館利用にかかる市民調査については、お一人ずつご意見をいただきたい。

(委員)

・今年度から図書館に関わるようになり、安城市図書館を見に行ってきた。図書館を中心としたアンフォーレという商業施設も併設している公共施設で、人が集まるところに図書館があった。本図書館も人を集めるとこどもが必要だと感じた。

・安城市図書館は休館だったので入れなかつたが、近未来的な図書館だった。かつてワーキングホリデイでカナダのバンクーバーの図書館をよく利用していた。多くの国の人々が集まり交流したり、楽器の貸出しがあつたり、公民館的な開けたスペースの利用があつた。

・図書館はどうしても固いイメージもあるので、もっと地域に開けた誰もが利用できる図書館になるといいと思った。

(委員)

・図書館に来る人だけでなく、アンケート調査ではいろいろな課題が見えてきていると思う。アンケート調査は、半田市在住の15歳以上のアンケートであったので、中学生の意見も聞いてみるのがいいと思った。

(委員)

・アンケート調査は、答える人が答える傾向があつて、本校の児童とても図書館が好きで、生の声を設問をしづらって聞いていくよ。

・他市町の図書館などの見学で、理想的な図書館となっていくと思う。

(委員)

・昨年から半田市図書館協議会の委員になって、これから図書館像を協議会で模索しているところで、建物も40年経ち、スペースも限られていて、学習スペースやボランティアの読み聞かせの場所など、今あるものをどう利用していくかを考えている。

・アンケート調査もだが、いろいろな立場の方がアイデアを出し合っていくと、目から鱗なことも多々あり、幅広い意見の収集が大切だと感じた。

(委員)

・先ほど委員長が委員構成で低年齢層に関わる方が多いと言っていたが、中高生からの意見をどう取り入れるかが課題と思った。

・中高生は、学校図書館でどの程度読書支援ができているかで、本図書館との連携に必要なことが探し出せる。より良い図書館運営基本計画になると思う。

(委員)

・アンケート調査を見て、社会情勢の変化に対応していく必要があり、非来館型の図書館サービスが求められると思う。それに対して、司書の知識の保存やアップデートなど人的な支援が必要だと思う。生涯学習と図書館は密接につながっている。

・アンケート調査では、科学館との連携のこと多く記載があり、他の施設と連携してイベントなどを実施するといい。それには、ボランティア団体の力も必要で、ボランティア団体との連携も必要だと思う。

(委員)

・図書館は、人生の中心と考えたときに老若男女たくさんの年代ごとに必要な部分がある。自分もそうだったが、高校生の時にはよく利用したが、その後利用しなくなってくる。各年代で必要な情報は趣向があるので、各年代に合ったカテゴリーがあるとおもしろいと思う。

・10年間の計画で、図書館というメインカルチャーの中においては、社会情勢は変化するが、心の豊かさなどの中心となる部分はあまり変化しないと思う。それに対しては、必要なことを見据えて取り組んでいけるよい。

・中学校のPTAでは、生徒の放課後の居場所作りが課題となっている。例えば、サブカルチャー的なもので、吹奏楽部の演奏の場所など自由に利用できるスペースが欲しいという声が多かった。

(委員)

・アンケート調査に対しては、貴重な意見が多く、特にイベントな

どの内容には、すごくヒントがあると感じた。

・社会情勢に応じた生成AIやデジタルの台頭はあるが、心の豊かさについて、本への親しみは、年代別に分けると傾向があるものの、家庭での本の親しみについては、デジタルが当たり前の時代であっても、団体の活動を通じて絵本の紙の良さを感じていただける機会となっている。

・委員長が冒頭で本図書館の事業を紹介していると言われていた部分で、他の図書館と比べてどこに興味を持たれたのか、半田の良さはどんなところか専門家の話を聞きしたい。

・課題となっているような中学校の世代について、ボランティア団体との連携にも広く深めていけるとよい。

(委員)

・第2次子ども読書活動推進計画の課題と評価はあったが、これからどうやって図書館運営基本計画に活かしていくかがわかりづらいところがある。

・おもしろそうなイベントなどをたくさん行っているが、こちらはそれを知らなかつたりするので、広報の問題もあると感じる。

・図書館の前にも商店街があり、会社もやっているので、企業とのタイアップもできるのではないかと楽しみに感じている。

(委員)

・アンケート調査の意見を見て、大半がボランティアとしてやってきていることで、こんなにも周知されていない、PR不足だったことがびっくりした。

・本図書館としての特色を持つといいと思う。本の貸出しは数字に表れるので大事だが、図書館は知識の宝庫で、憩い、癒し、集い、出会い、つながりを求めて図書館は存在していかないといけない。

・本をたくさん読んでもらうことは当然あるが、図書館へ来て人とつながり、いろいろな書物と出会い、いろいろな考え方を知り、そこで自分の考えを持つことが大事だと思う。

・教育が子どもにとって大切なように、本市の健全なまちづくりにとっても、賢い市民を育んでいくことが大切だと思う。大きすぎる目標ではあるが、本をたくさん読んだり、人と出会ったり、人の意見を聞いたりする先には、バランス感覚の良い考えを持つ人が育つていってほしいと思う。

(委員長)

・授業で本図書館を紹介しているのは、貸出率という指標でみて、半田市はずっと高いレベルをキープしている。また、早くから障がい者サービスにも目を向けていて、国会国立図書館の遠隔で利用できるサービスなどもできるようになっている。他にも赤ちゃんと絵本の出会い事業も、赤ちゃんにも貸出券を用意しているのがすごい

	<p>ところとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様のご意見は、非常に貴重なご意見だったので、次の第2回の骨子案へつながっていけるとよい。 ・アンケート調査は、社会調査で回収率が4割あれば良い成績とされているところで、十分な実績だと思う。クロス集計結果をふまえて、調査結果を活かした検討を進めたい。 <p>(館長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議は、顔合わせ及び委員の皆様が普段の活動から感じていることの意見出しが趣旨でした。 ・今後は、あと2回策定委員会の中で計画を作成していくという流れとなっていきますので、資料はなるべく早く出していきたい。また、会議がなくてもご意見をいただくこともあるかと思うが、ご協力いただきたい。 ・ボランティア団体や学校図書館との連携などすばらしいことも伝わっていかない中、本図書館の目指す姿や特徴について、本市特有の運営基本計画を策定して推進してきたいと昨年から考えていた。 ・アンケート調査は、年代や職業等をクロス集計した詳細な分析結果をもとに課題を導き出して骨子案につなげていきたい。
5. その他	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の第2回図書館運営基本計画策定委員会は、令和7年9月18日（木）午後2時から本図書館第1会議室で開催する。 ・第2回策定委員会では、計画の基礎となる骨子案を検討いただく。 ・次回開催日の概ね1週間前を目安に市民調査の分析報告書とワークショップの結果報告書、骨子案などの資料を送付する。